

～アセトン血性嘔吐症～

◎どんな症状？

疲れたり、ちょっと風邪をひいたりするとすぐに吐いてしまうお子さんがいます。

昔は自家中毒と呼ばれていました。**アセトン血性嘔吐症**という病気です。遠足とか運動会とかでとても元気に1日を過ごし、疲れて夕食も食べずに寝てしまったら、翌朝ぐったりして起きられず、何か飲ませても吐いてしまう。また風邪をひいて熱がでると、いつも吐き気がでて吐いてしまう、水分がとれずにいつも点滴になってしまう。こんな状況がアセトン血性嘔吐症の症状です。子どもは非常にぐったりして、時には起こしても目が覚めない、トトロ眠ってしまうという状態になることもあります。



◎なぜこのような状態になるのでしょうか？

人間の体のエネルギー源として、糖はとても大切な役割を果たしています。

糖は、体の中では肝臓に貯蔵されています。でも肝臓にたくわえられている糖は数時間しかもちません。特に10歳未満の子どもの場合、肝臓にたくわえることのできる糖が少ないためすぐに使い果たされてしまいます。糖が足りなくなると、体はエネルギー源として体の脂肪を分解します。しかし、体の脂肪分を分解してエネルギーを生み出すときは、ケトン体という副産物ができます。ケトン体は酸性なので、血液は酸性に傾き、吐き気・腹痛・頭痛などの症状があらわれます。この状態をアセトン血性嘔吐症といいます。尿検査をすると、ケトン体が陽性になります。

また血糖値も下がってしまうので、吐き気や生あくび、眠気、ぐったり、意識混濁と言った低血糖の症状も出てきます。血糖値は、正常では80～100くらいですが、子どもによっては、簡単に40以下にまで下がってしまうことがあります。低血糖は脳にダメージを与えてしまうこともあり、早急に糖を補給することが必要となります。

◎どのようにすればこのようなことが避けられるのでしょうか？

まずは糖（飴玉やぶどう糖や果汁など）を補給することです。ぐったり吐いているときには、糖分の入った水分をほんの少しずつ飲ませてください。1回スプーン1杯程度を5分おきに根気よく飲ませてください。OS1などの経口補水液は糖分と塩分のバランスが整っていて、効率よく体内に吸収されるのでおすすめです。吐き気止めを使って水分がとれるようにしてあげても良いでしょう。吐き気が強くてどうしても吐いてしまう、ぐったりして眠りがち、などという状態の時には点滴で糖分と水分を補給することが必要です。

◎普段の生活で気をつけること！

食事（特に夕食！）を抜かないでしっかり食べることが大切です。

アセトン血性嘔吐症を繰り返しているお子さんに関しては、食事は普段から脂肪分を控えめに、炭水化物とたんぱく質の多い食事にするなどが重要です。特にエネルギーを必要とするようなイベントがあった日や風邪症状のある日は、なおさらこのような食事が大切です。ただ、眠ってしまってどうしても食べられないときは、せめて飴玉やぶどう糖をなめさせるなどして糖分を補給してあげてください。

また過労にも注意しましょう。疲れ気味の時は、早く寝かせる、休日はしっかり休養させる、夜更かしさせないなどの配慮が必要です。

***重い自家中毒を繰り返す場合は、代謝異常や脳腫瘍など重症な病気が隠れていることがありますので、あまり頻繁な場合には医師に相談してください。**